

□主な内容

【第 48 回 EST 創発セミナー in 伊勢を開催します！】

8 月 29 日(木)に、EST 交通環境大賞で大賞(国土交通大臣賞)を受賞した三重県伊勢市で「観光客も生活者も地球にやさしく移動できる社会を目指して」と題して、第 48 回 EST 創発セミナーを開催します。皆様のご参加をお待ちしています！

<https://www.estfukyu.jp/sohatsu77.html>

【運輸部門の地球温暖化対策普及啓発映像を公開しました】

運輸部門の地球温暖化にかかわる現状とその対策や当財団の取り組みをとりまとめた映像を公開いたしました。

[https://www.ecomo.or.jp/environment/DVD/DVD\\_top.html](https://www.ecomo.or.jp/environment/DVD/DVD_top.html)

【EST メールマガジンの読者アンケートを実施しています】

EST メールマガジンの改善に役立てるため、読者アンケートを実施しています。アンケートへのご協力をお願いいたします。

<https://forms.gle/56h1W7kyPg1e3dBY7>

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 216 回)

●過疎地域の地域特性を考慮した持続可能な公共交通の取組み

【近畿大学工業高等専門学校 教授 中平恭之】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 216 回)

●「おかげバス環状線」でもっと早く、もっと便利に！伊勢市コミュニティバスの変遷

【伊勢市都市整備部交通政策課 御村聡美】

3. ニュース／トピックス

●「令和6年版国土交通白書」を公表しました ～持続可能な暮らしと社会の実現に向けた国土交通省の挑戦～【国土交通省】

●2024年度「はじめよう！地域再エネセミナー」の開催について【環境省】

●令和6年度日本版MaaS推進・支援事業で11事業を選定しました！～他分野連携やサービス広域化等の促進によりMaaSの高度化を図ります～【国土交通省】

- 地域の多様な関係者の「共創」による地域交通の維持・活性化の取組み等を支援します！ ～令和6年度「共創・MaaS実証プロジェクト」(2次公募)の事業選定について～【国土交通省】
- 日本版ライドシェアで雨天時のタクシー不足の解消を目指します！ ～日本版ライドシェアのバージョンアップの実施について～【国土交通省】
- 地域公共交通確保維持改善事業費補助金(自動運転社会実装推進事業)の公募結果について【国土交通省】
- 2024年4月の宅配便の再配達率は約10.4%でした ～前年同月比1.0ポイント減少、前年同月比0.7ポイント減少～【国土交通省】
- 「モーダルシフト加速化緊急対策事業」の追加公募について【国土交通省】
- 令和6年度環境配慮型先進トラック・バス導入加速事業の公募開始について【環境省】
- 第48回EST創発セミナーin伊勢[中部]【中部運輸局、伊勢市、EST普及推進委員会、エコモ財団】
- 8月5日は「タクシーの日」です ～環境に配慮した低公害のタクシー車両の導入が進んでいます～【中部運輸局】
- 地域・観光型MaaS「NASU-Ways」に夏のコンテンツ等が加わりました！【那須塩原市、那須町、JR東日本】
- 夏は合言葉「エコサマー」でおトクにおでかけ！ ～公共交通の運賃が大人1人につき小学生2人まで無料！～【京都府】
- 保戸島にてグリーンスローモビリティの実証運行を行っています【津久見市】
- 第2回グリーンスローモビリティ実証実験運行を行っています【若桜町】
- 八丈島でシェアサイクルサービス「八丈島サイクルシェア」を開始【東京都、八丈町、ドコモ・バイクシェア、日本工営】
- 「広げよう！ みえデコ活！ の輪」キャンペーンを開催しています【三重県】
- EVを活用し持続可能なまちづくりに向けて産官学で共創【京田辺市、同志社大学、日産自動車】
- シェアサイクルのポートの共同利用に関する業務提携に基本合意【ドコモ・バイクシェア、OpenStreet】
- 新幹線荷物輸送「はこびュン」による高速・多量輸送の事業化検証を開始します ～高速輸送ネットワークを活用し、新たな物流の実現を目指します～【JR東日本、JR東日本物流】
- それぞれの経営資源を有効活用する基本合意書を締結【佐川急便、JR貨物】
- 日本初、レベル4自動運転トラック幹線物流輸送実現に向けた公道実証を開始【T2、佐川急便、セイノーHD】
- 日本郵便の集配用車両として軽商用EV『ミニキャブEV』を3,000台受注【三菱自動車工業、日本郵便】
- 日本初の軽貨物EVレンタル事業となる「EVeeeeen(イーヴィーン)」が始動！【Trasaburou】

- Hondaの配達員向けバイクサブスクリプションサービス「EveryGo デリバリー」にて電動バイク「EM1 e:」等4車種を導入 ～Gachacoの提供するバッテリーシェアリングサービスとの連携で利便性を向上～【Gachaco、ホンダモビリティソリューションズ】
- 国際エネルギー機関がアメリカの「エネルギー政策レビュー」を公表しました【IEA】

#### 4. イベント情報

- 「ヤマノテクエスト ～目指せ！山手線マスター～」【2024/5/22-8/31】
- GO！GO！千曲川飯山線サイクルトレインプラン夏【2024/7/1-9/30】
- 第19回日本モビリティ・マネジメント会議【2024/8/24-25】
- グリーン経営認証取得講習会【2024/8/28】
- 第48回EST創発セミナーin伊勢〔中部〕【2024/8/29】
- 鉄道フェスティバル in 東北【2024/10/6】

#### 5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

---

---

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 216 回)

● 過疎地域の地域特性を考慮した持続可能な公共交通の取組み

【近畿大学工業高等専門学校 教授 中平恭之】

私からは、過疎地域での公共交通の取組みとして、三重県熊野市の事例を紹介したいと思います。熊野市は私が現在所属する近畿大学工業高等専門学校が以前に立地していたこともあり、私自身も非常にかかわりの深い地域です。

三重県熊野市は、三重県の南部に位置し、人口 15,165 人、市域面積 373.35km<sup>2</sup>、高齢化率 44.8%(2024 年 5 月現在)の自治体です。市域面積の 88%を森林が占めていますが、東部は海岸に面しており、温暖な気候の地域です。2004 年には「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界文化遺産に登録され、その参詣道である熊野古道伊勢路が市内を横断し、花の窟神社や獅子岩などの世界遺産に登録された景勝地も数多く存在しており、豊富な観光資源に恵まれています。また、毎年 8 月に開催される熊野大花火大会は約 17~20 万人の観光客の来場があり、全国でも人気の高い花火大会が開催されています。



熊野古道



熊野大花火大会



獅子岩

熊野市での公共交通の議論が活発化したのは、2003 年頃に三重県総合計画に基づいてつくられた「熊野生活創造圏づくり交通アクセス推進部会」によって議論が始められたことによると記憶しています。当時から、三重県総合計画の中で生活圏として「熊野市、紀和町、御浜町、鵜殿村、紀宝町」が指定されていたこともあり、2003 年には既に複数市町村が連携した議論が行われていました。そのため、2007 年に組織された「紀南地区地域公共交通会議」は、熊野市(紀和町と 2005 年に合併)と御浜町、紀宝町(鵜殿村と 2006 年に合併)が連携した枠組みとなっており、市町境界を越えたコミュニティバスの運行等が行われてきました。

紀南地域では、生活圏が市町境界を跨ぐことから複数市町村が連携した組織づくりは必須であったと言えます。発足当時、他地域ではこのような複数市町村で連携した公共交通の議論の場は少なく、また最近でも様々な利害関係等から連携が進まない状況も見られます。人々の生活圏を考慮した検討は交通需要を適切に把握し、移動手段を持続させるために

は大切だと感じています。

一方で、紀南地区地域公共会議では下部組織として各市町の分科会が組織されており、単独もしくは2市町での開催も可能となっています。そのため、熊野市内だけの問題は、熊野市が単独で検討する場合も見られます。

2010年から運行を開始した交通空白地有償運送(当時は過疎地有償運送)の「のってこらい(地元の方言で「のっていこうよ」を意味)」もその一つです。「のってこらい」の運行対象地域である熊野市五郷町は、過疎・高齢化が進行する人口7,600人程度の集落です。五郷町内にはバス路線が整備されていましたが高校生の通学利用者が主であり、運行便数が少なく、また町内に住居が点在していることなどの理由で、高齢者の多い地域住民の移動需要に十分に応えられていませんでした。

運行を開始したきっかけは、大きく2点あります。1点目は、様々な調査の結果、高齢者の方々の日常的な移動需要は比較的短距離での移動が多かったことです。これは、熊野市内の中心市街地以外の地域でも同様に見られました。「様々な調査」と記述しましたが、これらを把握できたのはアンケート調査や地元代表者との議論ではなく、住民の方々の聞き取り調査によって得られた意見です。当時は、熊野市役所の方々や研究室の学生などと分担して住民の方々を訪ね、聞き取り調査(実際にはほぼ日常的な会話をしていましたが)をして「隠れた移動ニーズ」を探す取り組みをしていました。交通需要を把握することは、非常に困難だと改めて感じましたし、住民の方々との「本当の意見交換」は非常に重要だと思いました。私はこの取り組みで得た住民の方々との意見交換の重要性を今も大切にしています。

2点目は、地元の方が地域のために積極的に取り組んでいることです。「のってこらい」はNPO法人によって運営されていますが、そのNPO法人の理事や役員は自治会長や老人会などの代表が務めています。特に、設立当時の代表理事兼ドライバーの方が地域の移動問題に対して熱い想いを持ち、地域の移動手段の確保に取り組んでくれました。今では地域にとってなくてはならない移動手段として定着しています。「のってこらい」はこれまでの様々な取り組みが評価され、2017年にふるさとづくり大賞の総務大臣賞(団体表彰)を、また2020年に過疎地域自立活性化優良事例表彰で総務大臣賞を受賞し、その後の活動の大きな励みになっています。



「のってこらい」と利用される住民



熊野市で活躍する車両

現在、熊野市は、コミュニティバスを 5 路線、地域内の短距離輸送を主として運行しているデマンド型の乗合タクシーを 4 地域、中心市街地周辺の観光施設を周遊する市街地周遊バスを 1 路線、「のってこらい」の運行地域が拡大して交通空白地有償運送を 2 地域運行しています。これらのすべてに当てはまることですが、どれも「無理をしない」運行をしていることです。無理をしないことで持続可能な移動手段を確保することを心掛けつつも、必要なことは果敢にチャレンジしています。

今後の課題としては、やはり高齢化の進展と人口減少問題です。2045 年には熊野市の人口は現在より約 4 割減の約 9,400 人と予想されており、今後地域の財政力は必然的に落ちると考えられます。当然、現在の公共交通サービスを維持することは困難であり、新たなシステムの導入を検討しなければなりません。

また、観光客の移動需要に応えることも重要な課題です。これまでは、市民の生活交通を最優先で検討してきましたが、観光客の増加による移動需要が増えています。その第 1 弾として 2024 年 7 月から和歌山県田辺市本宮町と熊野市紀和町を結ぶ定期路線の運航を始めます。取り組むべき課題は山積していますが、今後も持続可能な「無理をしない」計画を市民の方々と検討していきたいと思えます。

---

## 2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 216 回)

### ●「おかげバス環状線」でもっと早く、もっと便利に！伊勢市コミュニティバスの変遷

【伊勢市都市整備部交通政策課 御村聡美】

#### 1 伊勢市の概要

伊勢市は三重県の中東部にあり、比較的温暖な気候の都市です。北は伊勢湾に面し、中央には宮川や五十鈴川が流れ、伊勢志摩国立公園の玄関口として豊かな自然と美味しい食材に恵まれています。また、歴史と文化に富んだ名所・旧跡も多く、魅力ある地域資源が溢れています。

伊勢のまちは「お伊勢さん」とよばれ、神宮御鎮座(ごちんざ)のまちとして栄えてきました。2005年11月1日に伊勢市、二見町、小俣町、御蔭村が合併し、現在の人口は約12万人(5万6,340世帯)です。 ※2024年6月末現在。



#### 2 伊勢市の交通網とコミュニティバス「おかげバス」について

【鉄道】…… JR(参宮線)、近鉄(山田線、鳥羽線)

【バス】…… 路線バス(約17路線)、コミュニティバス(環状線+5路線)

【その他】… デマンド型乗合タクシー、自家用有償旅客運送、地域運営型乗合タクシー

路線バスは、三重交通とそのグループ会社の三交伊勢志摩交通が運行しており、市内を運行する路線は約17路線あります。

コミュニティバスの「おかげバス」は2007年4月から運行を開始し、主に路線バスが運行していない交通空白地を中心に5路線と、既存のバス路線網の補完をする環状線(2020年4月～)が運行しています。

### 3 おかげバス環状線について

「おかげバス環状線」は、市内の回遊性・移動利便性の向上を目的に、市内のショッピングセンターや病院、利用者の多い公共施設などの主要施設を環状につなぐルートを行っています。

導入のきっかけとなったのは、新病院(市立伊勢総合病院)の開院です。新病院の集客を上げるためには、病院へのアクセス向上と、病院からの新たな移動ルートを確保する必要がありました。

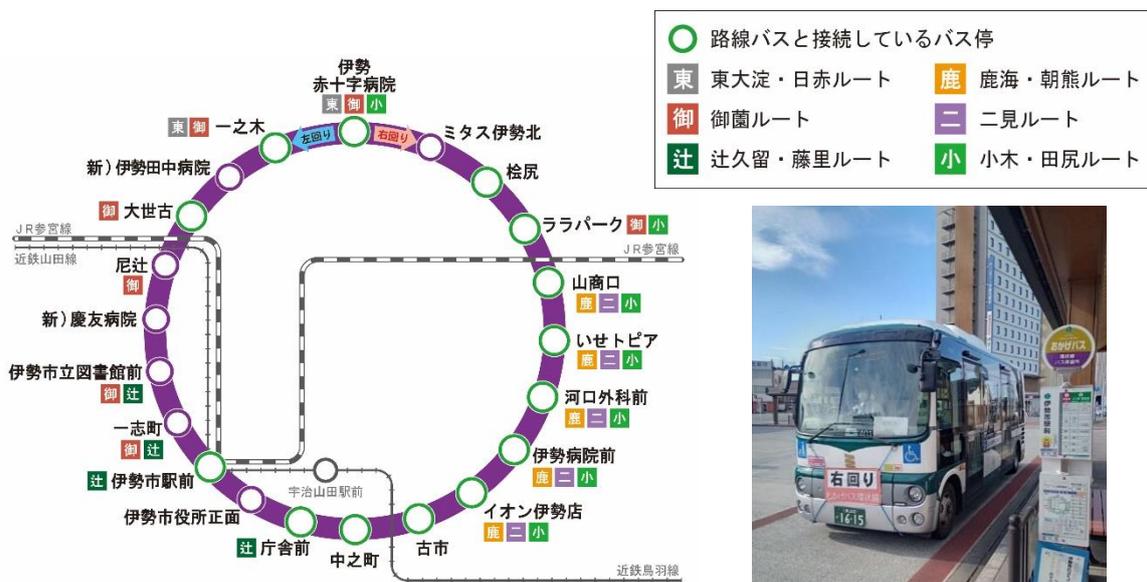
また、伊勢市内の公共交通網、特にバス路線は、伊勢市駅または宇治山田駅から各郊外に向けて運行しているため、郊外にある商業施設や医療機関などから別の郊外にある商業施設、医療機関に移動しようとすると、一旦伊勢市駅(または宇治山田駅)まで戻り、別のバス路線に乗り換えて移動する必要がありました。

この不便さを解消するため、既存のおかげバス路線の見直しに着手。市内の主要な駅、商業施設、医療機関などを結んで運行する循環路線(おかげバス環状線)を新たに追加することに踏み切りました。

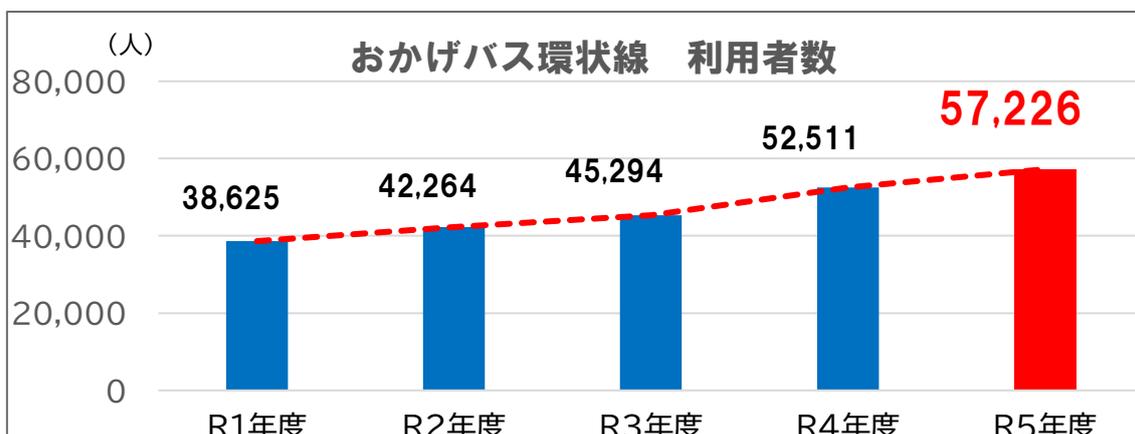
#### 【環状線導入検討～本格運行まで】

時期	経緯
H30.4	伊勢地域公共交通会議でバス路線再編計画を報告
H30.8	市民アンケート、地域懇談会、バス利用者への聞き取り調査を実施
H31.1～R1.8	社会実験運行 第一期
R1.9～R2.3	社会実験運行 第二期 ・第一期の利用状況が少ないバス停を廃止し、運行時間短縮 ・運転手交代による連続運転 ・夕方の増便(19時台まで)を行い、夕方需要の検証 ・既存おかげバスとの統廃合検討 など
R2.4～	本格運行開始

＜参考：第二期社会実験運行 路線図＞



「おかげバス環状線」の導入により、市内の移動利便性が向上し、主要な施設へのアクセスが大幅に改善されました。社会実験運行の2019年度は38,000人程度でしたが、本格運行を開始した2020年度から直近の2023年度まで、コロナ禍により公共交通機関の利用者が減少する中、順調に右肩上がり利用者が増加し、直近の2023年度には57,226人まで増加しました。これは実証運行の段階から利用者のニーズに合わせ、運行ルートやダイヤを丁寧に見直してきたことが、利用者の定着に繋がった結果と考えています。



「おかげバス」は環状線以外の路線も含め、市内の主要な医療施設への通院や商業施設への買い物など、市民の生活を支える地域公共交通として非常に重要な役割を担っています。今後も乗り継ぎ環境の改善やダイヤ調整などを適宜実施し、より便利で、利用しやすい公共交通網の形成を目指していきます。

---

### 3. ニュース／トピックス

●「令和 6 年版国土交通白書」を公表しました ～持続可能な暮らしと社会の実現に向けた国土交通省の挑戦～【国土交通省】

国土交通省は、令和 6 年度版国土交通白書を公表しました。国土交通白書は、国土交通省の施策全般に関する年次報告として毎年公表しています。今回の白書は、深刻な少子高齢化と人口減少に直面している我が国の現状を踏まえ、「持続可能な暮らしと社会の実現に向けた国土交通省の挑戦」をテーマとしました。人口減少の影響を最小限に抑えるため、防災、まちづくり、公共交通、物流、インフラなど、国土交通分野における施策の方向性を示した上で、今後の「持続可能で豊かな社会像」を展望しています。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo01\\_hh\\_000052.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo01_hh_000052.html)

●2024 年度「はじめよう！地域再エネセミナー」の開催について【環境省】

環境省は、「これから地域脱炭素事業をはじめていきたい」地域の人に向けて、基礎的な知識や事例、実践にあたっての様々な壁を乗り越える方法を学ぶことができるオンライン基礎講座「はじめよう！地域再エネセミナー」（全 8 回）を開講しました。

本セミナーは、これから地域脱炭素を進めたいと考えている自治体職員を主な対象として、地域に利益をもたらす再エネや省エネに関する基礎的な知識や事例等を学ぶことができるオンライン講座を全 8 回の予定で開催します。第 6 回（10 月 22 日）には、「地域脱炭素の具体施策 3—交通・まちづくり・レジリエンス」の講義テーマを予定しています。

[https://www.env.go.jp/press/press\\_03346.html](https://www.env.go.jp/press/press_03346.html)

●令和6年度日本版MaaS推進・支援事業で11事業を選定しました！ ～他分野連携やサービス広域化等の促進によりMaaSの高度化を図ります～【国土交通省】

国土交通省は、地域の課題解決に資する MaaS のモデル構築を図る「日本版 MaaS 推進・支援事業」について、他分野連携やサービスの広域化等の促進により MaaS の更なる高度化を図る取組みとして、11 事業を選定しました。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12\\_hh\\_000379.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000379.html)

●地域の多様な関係者の「共創」による地域交通の維持・活性化の取組み等を支援します！ ～令和6年度「共創・MaaS実証プロジェクト」(2次公募)の事業選定について～【国土交通省】

国土交通省は、地域の多様な関係者の「共創」により地域公共交通の「リ・デザイン」を進めるため、「共創・MaaS 実証プロジェクト」の 2 次公募を行いました。応募のあった事業については、有識者の意見も踏まえて、地域交通の維持・活性化に取り組む「共創モデル実証運行事業」を 96 件、交通を軸として地域全体をコーディネートできる人材を育成する「モビリティ

人材育成事業」を16件、選定しました。これにより、採択事業の合計は、共創モデル実証運行事業は255件、モビリティ人材育成事業は73件となっています。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12\\_hh\\_000378.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000378.html)

●日本版ライドシェアで雨天時のタクシー不足の解消を目指します！ ～日本版ライドシェアのバージョンアップの実施について～【国土交通省】

国土交通省は、2024年4月にスタートした日本版ライドシェアについて、雨天によるタクシー利用者の増加に対応できるよう7月1日からバージョンアップしました。日本版ライドシェアの運用を開始して以降、雨天時においては移動需要が大きくなる傾向が確認されましたことを踏まえ、1時間5mm以上の降水量が予報される時間帯に日本版ライドシェアの車両を使用可能とすることで、雨天時の移動の足不足の解消を目指します。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha03\\_hh\\_000432.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha03_hh_000432.html)

●地域公共交通確保維持改善事業費補助金(自動運転社会実装推進事業)の公募結果について【国土交通省】

国土交通省は、人手不足など地域公共交通が直面する課題に対応する手段の一つとして期待されている自動運転の実現に向けて、地方公共団体が地域づくりの一環として行うバスサービス等の自動運転に係る事業に対して補助を行っています。

2024年4月5日から5月7日まで公募を実施し、地方公共団体から申請のあった事業のうち、99事業について事業対象として交付決定を行いました。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha07\\_hh\\_000510.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha07_hh_000510.html)

●2024年4月の宅配便の再配達率は約10.4%でした ～前年同月比1.0ポイント減少、前回比0.7ポイント減少～【国土交通省】

国土交通省は、トラックドライバーの人手不足が深刻化する中、再配達の削減を図るため、宅配ボックスや置き配をはじめ多様な方法による受取を推進しており、これらの成果を継続的に把握すること等を目的として、宅配便の再配達率のサンプル調査を年2回(4月・10月)実施しています。

2024年4月の宅配便再配達率は約10.4%で2023年4月(約11.4%)と比べて約1.0ポイント減、2023年10月(約11.1%)と比べて約0.7ポイント減となりました。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01\\_hh\\_000791.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000791.html)

●「モーダルシフト加速化緊急対策事業」の追加公募について【国土交通省】

国土交通省は、荷主企業及び貨物運送事業者(貨物自動車運送事業者、貨物利用運送事業者、鉄道事業者、海上運送事業者、港湾運送事業者又は倉庫事業者)等の物流に係る関係者によって構成される協議会が、コンテナラウンドユース等の先進的なモーダルシフトの取組みを実施する場合に、モーダルシフトの推進に資する機器の導入等を行う実

証事業に要する経費の一部を補助する「モーダルシフト加速化緊急対策事業費補助金」について、追加募集を行います。公募期間は、10月31日までです。

[https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01\\_hh\\_000800.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000800.html)

●令和6年度環境配慮型先進トラック・バス導入加速事業の公募開始について【環境省】

環境省は、国土交通省と連携して、環境配慮型先進トラック・バスの普及を促進し、運輸部門におけるCO<sub>2</sub>排出削減を図ることを目的として、「令和6年度環境配慮型先進トラック・バス導入加速事業」を実施します。

執行団体である（公財）北海道環境財団において、本補助金の公募が開始しました。公募期間は、環境配慮型先進トラック・バス導入事業が2025年1月31日まで、環境配慮型先進連節バス導入事業が2024年7月31日までです。

[https://www.env.go.jp/press/press\\_03389.html](https://www.env.go.jp/press/press_03389.html)

●第48回EST創発セミナーin伊勢[中部]【中部運輸局、伊勢市、EST普及推進委員会、エコモ財団】

EST普及推進委員会とエコモ財団は、環境的に持続可能な交通（EST）の普及推進を図ることを目的に、8月29日に第48回EST創発セミナーin伊勢を開催します。今回のセミナーでは、環境的に持続可能な地域交通と観光やその事例に関する講演、伊勢市の取り組み紹介の後、意見交換を通じて伊勢市での観光の公共交通への転換に向けた今後の展開や、他地域で観光客への意識啓発や地域交通のカーボンニュートラルに取り組む際の課題や解決策などについて議論します。

イベント当日の午前中及び翌日の午前中に現地見学会を開催します。詳細が決まり次第、参加希望者に案内します。

<https://www.estfukyu.jp/sohatsu77.html>

●8月5日は「タクシーの日」です ～環境に配慮した低公害のタクシー車両の導入が進んでいます～【中部運輸局】

中部運輸局は、8月5日の「タクシーの日」にちなみ、中部運輸局管内各県のタクシー協会において、タクシーの利用促進を目的としたキャンペーン活動を実施します。タクシー利用者や主要鉄道駅でのノベルティ配布、展示イベントや清掃活動等のキャンペーン活動を予定しています。

<https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/press/pdf/jikou2024071701.pdf>

●地域・観光型 MaaS「NASU-Ways」に夏のコンテンツ等が加われました！【那須塩原市、那須町、JR東日本】

那須塩原市・那須町と東日本旅客鉄道株式会社は、2024年4月から再スタートした地域・観光型 MaaS「NASU-Ways～MaaS for NASU Trip～」に、7月10日以降、夏休みの

ご利用に便利な電子チケットや現地の観光情報等、夏的那須・塩原エリアを楽しめるコンテンツやサービスが追加しました。また、対象の電子チケットを購入・利用してアンケートに答えるとJRE POINT がもらえる「NASU-Ways 買って使って答えてもらおうキャンペーン」を実施しています。

[https://www.jreast.co.jp/press/2024/omiya/20240703\\_o01.pdf](https://www.jreast.co.jp/press/2024/omiya/20240703_o01.pdf)

●夏は合言葉「エコサマー」でおトクにおでかけ！ ～公共交通の運賃が大人 1 人につき小学生 2 人まで無料！～【京都府】

京都府は、子どもに公共交通を身近に感じてもらう機会を増やし、環境負荷の少ない公共交通への利用転換を図るため、バスや京都丹後鉄道の運賃が保護者 1 人につき小学生 2 人まで無料となる「きょうとエコサマー」を、8 月 25 日まで実施しています。

<https://www.pref.kyoto.jp/tdm/news/kyotoecosummer2024.html>

●保戸島にてグリーンスローモビリティの実証運行を行っています【津久見市】

津久見市は、8 月 9 日までの期間で、保戸島において定時運航と予約制運行によるグリーンスローモビリティの実証運行を行っています。今回の実証運行では、グリーンスローモビリティという車両を実際に利用してもらい、運行するにあたってのメリット・デメリット・課題等を検証し、本格運行への可能性を検討していくものです。

<https://www.city.tsukumi.oita.jp/soshiki/10/27417.html>

●第 2 回グリーンスローモビリティ実証実験運行を行っています【若桜町】

若桜町は、持続可能な地域公共交通網の形成を目指し、地域住民の日常生活における交通を担う新たな移動手段や観光の二次交通として、環境に優しく低速で安全な「グリスロ」の活用の可能性を検証するため、8 月 16 日までグリーンスローモビリティの実証実験運行を実施しています。

運行内容は、若桜宿内で「まちなかルート」の 3 路線での路線定期運行、「鬼ヶ城ルート」・「郷土文化の里ルート」の 2 路線の区域運行(希望制)です。

<https://www.town.wakasa.tottori.jp/soshikikarasagasu/kikakuseisakuka/1/jouhokoutuukakari/10/gurisuro/1256.html>

●八丈島でシェアサイクルサービス「八丈島サイクルシェア」を開始【東京都、八丈町、ドコモ・バイクシェア、日本工営】

株式会社ドコモ・バイクシェアと日本工営株式会社は、東京都の実施する八丈島スマートモビリティサービス実証事業の一環として、2024 年 7 月 17 日より、東京都八丈島でシェアサイクルサービス「八丈島サイクルシェア」を開始しました。八丈島における交通課題解決のため、手軽に利用できる交通サービスを目指します。

<https://www.d-bikeshare.com/news/detail/20240717>

●「広げよう！ みえデコ活！ の輪」キャンペーンを開催しています【三重県】

三重県は、2050年までに県域からの温室効果ガスの排出実質ゼロを目指して、県民の脱炭素型ライフスタイルへの転換を図る「みえデコ活」の取組みとして「みえデコ活！ 省エネ家電購入応援キャンペーン」を実施しており、実施期間に合わせて、県民が行っている「みえデコ活」をInstagramに投稿する「広げよう！ みえデコ活！ の輪」キャンペーンを開催しています。

<https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0012300320.htm>

●EV を活用し持続可能なまちづくりに向けて産官学で共創【京田辺市、同志社大学、日産自動車】

京田辺市と、同志社大学および日産自動車株式会社の3者は、7月12日に、持続可能なまちづくりに向けEVを活用したカーボンゼロシティとモビリティサービスを推進していく「3者連携協定」を締結しました。EVの積極的な活用により脱炭素社会を推進し、地域・社会へのモビリティサービス貢献を目的とし、本協定締結に基づく新たなプログラムの創出と様々な取組みを行います。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/240712-02-j>

●シェアサイクルのポートの共同利用に関する業務提携に基本合意【ドコモ・バイクシェア、OpenStreet】

株式会社ドコモ・バイクシェアと、OpenStreet株式会社は、両社がそれぞれ提供するバイクシェアサービス、HELLO CYCLINGで利用できる電動アシスト自転車を、双方のポートで利用・返却できる「ポートの共同利用」の実現に関し、業務提携に合意しました。

バイクシェアサービスとHELLO CYCLINGでは、これまでも同一の敷地を分割してそれぞれのポートを設置しているケースが一部でありましたが、今後は双方の自転車を双方のポートで利用できるようにすることで、土地利用の効率化と利便性の向上を図ります。また、自転車の再配置やバッテリー交換を協業することで、オペレーションの効率化と利用環境のさらなる向上を図り、シェアモビリティ事業の基盤強化を目指します。

<https://www.d-bikeshare.com/news/detail/20240710>

●新幹線荷物輸送「はこびユン」による高速・多量輸送の事業化検証を開始します ～高速輸送ネットワークを活用し、新たな物流の実現を目指します～【JR東日本、JR東日本物流】

東日本旅客鉄道株式会社と株式会社ジェイアール東日本物流は、新幹線を活用した高速・多量荷物輸送により、「物流の2024年問題」や「CO<sub>2</sub>排出量削減」、「地方創生」等、社会的課題の解決の一助を担うことを目的に、高速・多量輸送の事業化検証を実施します。

本取組みでは、2023年度に4回実施した多量輸送トライアルでの成果や課題などを踏まえ、多量輸送を今後定期的なサービスとして事業化することを見据え、実際のニーズの確認やオペレーションの検証などを行います。

[https://www.jreast.co.jp/press/2024/20240708\\_ho01.pdf](https://www.jreast.co.jp/press/2024/20240708_ho01.pdf)

●それぞれの経営資源を有効活用する基本合意書を締結【佐川急便、JR 貨物】

佐川急便株式会社と日本貨物鉄道株式会社は、それぞれの経営資源を有効活用する「基本合意書」を7月5日に締結しました。基本合意の内容は以下の通りです。

(1)相互の経営資源を活用することやイノベーションを推進することで、顧客の利便性向上に資する競争力の高い国内輸送サービスを構築し、顧客の物流的課題の解決を図る。

(2)相互のサービス、輸配送ネットワーク、システムおよびノウハウを共同で活用することにより効率的なインフラを構築するとともに、相互に営業推進することでお互いの収益の向上を図る。

(3)天候や災害等を起因とした輸送障害時、相互の輸送を維持するための協力を行うことで、物流インフラの強靱化を図るとともに、健全で持続可能な脱炭素社会の実現と社会の課題解決に貢献する。

[https://www2.sagawa-exp.co.jp/newsrelease/detail/2024/0708\\_2273.html](https://www2.sagawa-exp.co.jp/newsrelease/detail/2024/0708_2273.html)

●日本初、レベル4自動運転トラック幹線物流輸送実現に向けた公道実証を開始【T2、佐川急便、セイノーHD】

株式会社 T2 と佐川急便株式会社、セイノーHD 株式会社は、2024 年 10 月から 2025 年 6 月にかけて、T2 が開発した自動運転トラックを用いた幹線輸送の実証実験を、東京・大阪間の高速道路一部区間で実施します。

さまざまな条件下の公道において、運送事業者である佐川急便、セイノーHD の荷物を輸送することで、将来の事業化に向けた、知見の獲得や改善点の洗い出しを目的としています。また、今回の実証実験をきっかけに自動運転トラックでの幹線輸送実現に向けた協議会の設立を今後検討します。

[https://www2.sagawa-exp.co.jp/newsrelease/detail/2024/0711\\_2278.html](https://www2.sagawa-exp.co.jp/newsrelease/detail/2024/0711_2278.html)

●日本郵便の集配用車両として軽商用 EV『ミニキャブ EV』を 3,000 台受注【三菱自動車工業、日本郵便】

三菱自動車工業株式会社は、日本郵便株式会社から、集配用車両としてワンボックスタイプの軽商用 EV『ミニキャブ EV』3,000 台を受注しました。今秋より順次納入します。『ミニキャブ EV』は、ルート配送に十分な航続距離 180km を実現しました。大容量の荷室空間をもち、重い荷物を積載した場合でも、滑らかで力強いモータードライブでキビキビと走行することができます。さらに、CO<sub>2</sub> を含めたガスを全く排出しない環境性能だけでなく、閑静な住宅街での集配でも音を気にする必要のない静粛性の高さや、業務時間内の給油の手間を省ける利便性などが好評であり、ラストワンマイルの課題解決に貢献するとともに、温室効果ガス排出量の削減を目指す日本郵便の環境マネジメントの推進にも寄与します。

[https://www.mitsubishi-motors.com/jp/newsroom/newsrelease/2024/20240708\\_1.html](https://www.mitsubishi-motors.com/jp/newsroom/newsrelease/2024/20240708_1.html)

●日本初の軽貨物 EV レンタル事業となる「EVeeen(イーヴィーン)」が始動！【Trasaburou】

株式会社 Trasaburou は、リース事業における新たなブランド「EVeeeen」を立ち上げ、日本初となる軽貨物 EV のレンタルサービスの提供を 7 月 1 日より開始しました。これにより、軽貨物事業者の事業環境の向上と自然環境に配慮したビジネスモデルの構築を実現します。

「EVeeeen(イーヴィーン)」は、国内外複数の自動車メーカーが参入し、排出ガスの削減、騒音の低減、そして環境保護への取組みといった環境面だけでなく、各社さまざまな特徴や利点を有する商用 EV を戦略的に活用することで、ユーザーとなる軽貨物事業者の置かれた経営環境に応じた最適解を提供します。これは初期投資、ランニングコスト、保険などの負担を大きく削減するサービスの提供によって軽貨物事業者の持続可能な経営をサポートするものです。

<https://trasaburou.co.jp/news/240701.html>

●Honda の配達員向けバイクサブスクリプションサービス「EveryGo デリバリー」にて電動バイク「EM1 e:」等 4 車種を導入 ～Gachaco の提供するバッテリーシェアリングサービスとの連携で利便性を向上～【Gachaco、ホンダモビリティソリューションズ】

株式会社 Gachaco とホンダモビリティソリューションズ株式会社(以下、HMS)は、電動バイクのバッテリー交換における利便性向上を目的に、HMS が運営する配達員向けバイクサブスクリプションサービス「EveryGo デリバリー」に新たに導入する電動バイクにおいて、Gachaco が提供する電動バイク向けバッテリーシェアリングサービスを利用可能とする業務提携を締結しました。HMS は、本業務提携を受けて、「EveryGo デリバリー」のラインアップに交換式バッテリー「Honda Mobile Power Pack e:」を動力源に使用した Honda の電動バイク 4 車種を新たに追加し、2024 年 7 月 3 日より申込受付を開始しました。

<https://gachaco.co.jp/20240703>

●国際エネルギー機関がアメリカの「エネルギー政策レビュー」を公表しました【IEA】

国際エネルギー機関は、アメリカのエネルギー政策を評価した報告書を公表し、エネルギー安全保障向上とクリーンエネルギー転換に向けた政府措置がクリーンエネルギー投資の急増をもたらす、安定的で持続可能、手頃な価格のエネルギーシステム確立の取組みが大きく前進したことを報告しました。

アメリカは、再生エネルギーや蓄電池、EV の主要市場であり、クリーンエネルギー投資は過去 4 年間で約 60%増加しています。

<https://www.iea.org/news/iea-policy-review-highlights-leadership-of-united-states-on-energy-security-and-clean-energy-transitions>

---

#### 4. イベント情報

●「ヤマノテクエスト ～目指せ！山手線マスター～」

日時:2024年5月22日(水)～8月31日(土)

場所:山手線沿線

対象:小学1年生～3年生と家族

※小学1年～3年以外も参加可能

主催:JR東日本首都圏本部

[https://www.jreast.co.jp/press/2024/tokyo/20240515\\_to01.pdf](https://www.jreast.co.jp/press/2024/tokyo/20240515_to01.pdf)

●GO！GO！千曲川飯山線サイクルトレインプラン夏

日時:2024年7月1日(月)～9月30日(月)

場所:森宮野原駅～飯山駅

主催:JR東日本

[https://www.jreast.co.jp/press/2024/nagano/20240612\\_na01.pdf](https://www.jreast.co.jp/press/2024/nagano/20240612_na01.pdf)

●第19回日本モビリティ・マネジメント会議

日時:2024年8月24日(土)・25日(日)

場所:福井県福井市フェニックスプラザ

主催:(一社)日本モビリティ・マネジメント会議

<https://www.jcomm.or.jp/>

●グリーン経営認証取得講習会

日時:2024年8月28日(水)13:30～16:30

場所:(一社)滋賀県トラック協会 トラック総合会館 視聴覚室(3階)

主催:国土交通省近畿運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/000326281.pdf>

●第48回EST創発セミナーin伊勢〔中部〕

日時:2024年8月29日(木)

14:20～17:50

場所:ハイブリッド開催(オレンジ伊勢 クラシックオレンジ+オンライン配信)

主催:国土交通省中部運輸局、伊勢市、EST普及推進委員会、(公財)エコモ財団

<https://www.estfukyu.jp/sohatsu77.html>

●鉄道フェスティバル in 東北

日時:2024年10月6日(日)10:00~15:00

場所:JR貨物・仙台貨物ターミナル駅(旧宮城野駅)構内

主催:国土交通省東北運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/content/000324712.pdf>

---

## 5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

[https://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters\\_top.html](https://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html)

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<https://mm-education.jp/mailmagazine.html>

- グリーンスローモビリティに関する情報を掲載しています！

[https://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/gsm\\_top.html](https://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/gsm_top.html)

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<https://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<https://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組や話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: [magazine@ecomom.or.jp](mailto:magazine@ecomom.or.jp)(担当: 岡本)

---

発行: 環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<https://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

[https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail\\_ecomo](https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo)

EST ポータルサイト: <https://www.estfukyu.jp/>